

## 校地選定の結果報告

高校再編推進室

中野総合学科新校(仮称)の校地を選定するにあたり、「校地選定に係る検討項目」に則り、校地検討会議の議論を参考に県教育委員会にて下記のとおり検討した。

## 1 校地・校舎に係る環境

○検討項目(観点) ◇検討にあたっての考え方	検討結果
<p>○学びを支える、学習環境の施設 ◇開設時の募集定員を想定した上で、学習空間・施設を確保することができるのかを検討する。また、定時制の校舎を全日制とは別に設置することが必要だと考える。</p>	<p>○新校の募集学級数を7～8学級程度と想定すると、両校の開設当時の学級数は中野立志館高校が7学級、中野西高校が8学級であり、どちらの校地でも教室等の空間を確保することは可能である。設置する選択科目等の詳細は今後検討していくことになるが、総合学科高校は普通教科に加え、工業、商業等の専門教科の学びを特徴としている。これらの学びを推進するにあたっては、中野立志館高校の既存の施設・設備を有効に活用していくことが望ましいと考える。</p> <p>○同様に、定時制での学びの空間を確保するためには、全日制とは別に校舎を設置する必要があることから、中野立志館高校の既存の定時制棟を活用することが望ましいと考える。</p>
<p>○敷地(校地)の広さ ◇充実した施設を整備するには、敷地面積が広い校地が必要だと考える。</p>	<p>○建物敷地面積は、中野立志館高校が20,278m<sup>2</sup>、中野西高校が19,640m<sup>2</sup>であり、中野立志館高校に優位性があると考え。また、運動場敷地面積を含めた敷地面積合計は、中野立志館高校が50,575m<sup>2</sup>、中野西高校が57,764m<sup>2</sup>であり、中野西高校に優位性があると考え。</p>
<p>○部活動の活動場所の確保 ◇部活動等の活動場所が確保できる校地が必要だと考える。(不足する場合、第二グラウンド等の施設の活用可否)</p>	<p>○部活動の活動場所は、同一校地内外の違いはあるが、両校ともに体育館および野外施設がある。また、第二グラウンドや必要に応じて中野市多目的サッカー場を使用しており、両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○駐車場施設の確保 ◇学校行事等で大勢の方が来校する際、校内の駐車場スペースや借用が可能な近隣の駐車場が必要だと考える。</p>	<p>○他校の駐車場の状況を見ても自校だけで大勢の来校者の駐車スペースを確保することは難しい状況にある。両校においても学校行事等で大勢が来校する際には、隣接する駐車スペースを借用しており、両校に大きな差はないと考える。</p>

## 2 通学環境

○検討項目(観点) ◇検討にあたっての考え方	検討結果
<p>○駅からの距離 ◇各地から生徒が集まることも想定し、駅から徒歩通学ができる校地が必要だと考える。</p>	<p>○両校の最寄り駅である「信州中野駅」から中野立志館高校、中野西高校までの距離と徒歩での所要時間は、それぞれ650m(8分程度)、1100m(15分程度)であり、駅から徒歩通学ができるという点では校地として両校に大きな差はないと考える。</p>
<p>○通学時の安全性 ◇駅から学校間の通学時の安全が確保できる校地が必要だと考える。</p>	<p>○両校の最寄り駅である「信州中野駅」から両校までの通学路において、交通量の多い道路には歩道が設置されており、通学時の安全性は両校ともに確保されている。通学時の安全について両校に大きな差はないと考える。</p>

## 3 学習活動を支える教育環境

○検討項目(観点) ◇検討にあたっての考え方	検討結果
<p>○他の学校との交流の利便性 ◇他の学校との連携や交流がしやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○様々な校種の学校との連携が考えられる。中野立志館高校には隣接する中学校、移動距離が1km未満の小学校があるが、他の学校との連携はその仕方によるところが大きく、現段階では交流のしやすさについて優位性を判断することは困難である。</p>

<p>○<b>地域との交流の利便性</b> ◇地域の施設や企業との連携、交流を想定し、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○様々な連携先が想定されるため、現段階では地域の施設や企業との連携、交流について優位性を判断することは困難である。</p>
<p>○<b>隣接施設の有用性</b> ◇学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○中野立志館高校については、隣接する施設として中野市役所と中野市民会館がある。中野市と連携・協働した取組や行事・式典での使用、交流スペースでの活動等の活用が期待できる。</p>
<p>○<b>周辺の学習環境（自学、自習スペース）</b> ◇放課後の学習のための自習スペース等へ、生徒が移動しやすい校地が必要だと考える。</p>	<p>○利用できる施設として中野市立図書館が考えられる。他地区の高校生を含め10名程度から多い時で定員一杯の30～40名が同図書館の学習スペースを利用している。両校と最寄り駅である「信州中野駅」の間に立地し、両校からの距離は同程度であり両校に大きな差はないと考える。</p>

#### 4 総括

校地検討会議において、校地選定に係る基本方針として、現在の校地の使用を前提として検討することや、授業等の学びは一カ所の校地で行うことを原則とすること等を確認した。その後、各検討項目（観点）と検討にあたっての考え方について確定し、各検討項目について中野立志館高校と中野西高校の校地の比較、検討を行った。

中野立志館高校に優位性があると考えられる項目は「1校地・校舎に係る環境」の「学びを支える、学習環境の施設」、「敷地（校地）の広さ」の建物敷地面積、「3学習活動を支える教育環境」の「隣接施設の有用性」であり、中野西高校に優位性があると考えられる項目は「1校地・校舎に係る環境」の「敷地（校地）の広さ」の運動場敷地面積を含めた敷地面積であった。これらのことをもとに、校地選定について意見交換を重ねてきたが、どちらも校地候補として甲乙つけがたく、校地選定は県教育委員会に委ねるとの結論に至った。

以上のような校地検討会議での意見交換を踏まえ、下記のように検討した。

検討項目（観点）の設定にあたっては、新校の学びのイメージを主眼に置いて検討してきた。新校では、「多様な進路希望に対応できる教育課程」や「地域の人々とともに協働して取り組むESD（持続可能な開発のための教育）」を学びの柱としている。一つ目の「多様な進路希望に対応できる教育課程」では「1校地・校舎に係る環境」の「学びを支える、学習環境の施設」、二つ目の「地域の人々とともに協働して取り組むESD」では「3学習活動を支える教育環境」の「隣接施設の有用性」が新校での学びを実現してくために最優先すべき項目（観点）であると考えられる。

改築の基準（目安）となる築年数を超える校舎は中野立志館高校が2～3棟程度、中野西高校は該当する校舎がない状況である。新校の施設整備の計画は今後検討すべきことであるが、総合学科における専門教科の学びを行っていくためには、中野立志館高校の既存の施設・設備を有効に活用していくことが望ましいと考える。

また、地域共学コンソーシアム（仮称）との連携を深めていくためには、中野市役所や市民会館等と隣接していることも重要なポイントの一つであると考えられる。これは、集約型都市構造を目指す中野市のまちづくりの方向性とも合致するものと考えられる。

新校の校地候補として甲乙つけがたい両校の校地であるが、上記のことから総合的に検討した結果、次のように判断した。

<p>○中野総合学科新校（仮称）は中野立志館高校の校地校舎を活用する。</p>
---

# 中野総合学科新校（仮称）再編実施基本計画（案）

## 1 再編統合対象校

中野立志館高等学校、中野西高等学校

## 2 募集開始（開校）年度

令和 12 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 12 年度を新校の募集開始年度とする。

## 3 活用する校地・校舎

中野立志館高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、学びを支える学習環境の施設、隣接施設の有用性の観点から中野立志館高等学校の校地・校舎を活用する。

## 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 7～8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7～8 学級程度が想定される。

現在の中野立志館高校定時制は、中野総合学科新校に移管する。

## 5 学びのイメージ

別紙のとおり

中野立志館高校の総合学科、中野西高校のユネスコスクールの学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びである ESD（持続可能な開発のための教育）をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の学びの拠点となる総合学科高校を構想する。

## 6 施設整備

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

## 未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校

- 挑戦 様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
- 創造 自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
- 協働 地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

### 総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

キャリアデザイン

探究学習・ESD

多彩な科目

#### ○多様な進路希望に対応できる教育課程

- ・個別最適な時間割が作成できる、将来のキャリア形成に繋がる魅力ある多彩な科目群
  - ⇒工業、商業、観光、情報、福祉、家庭、農業、外国語、芸術等のバラエティに富んだ学びの充実
  - ⇒大学進学を目指すための科目の充実
- ・オンラインも活用した大学・専門学校との連携、他校の授業履修や単位互換

#### ○環境、地域の課題や国際理解について地域の人々とともに協働して取り組むESD

- ・視野を広げ、多様性受容力を高めるための地域共学コンソーシアムや国内外のユネスコスクールとの連携
- ・地域全体を学びのフィールドとした学習活動
- ・地域の人などを外部講師として活用した授業、企業実習(地域人材の活用)

#### ○自分の「好き」や「強み」を深める活動

- ・多様な活動を通じた専門性の追求・向上
  - ⇒ボランティア活動やインターンシップ等の学校外の学び
  - ⇒異文化理解を深める海外との交流、海外留学への支援

#### 地域共学コンソーシアム



幼保小中高



医療・福祉機関



地域産業



自治体

#### ユネスコスクール

